

井の頭恩賜公園花便り

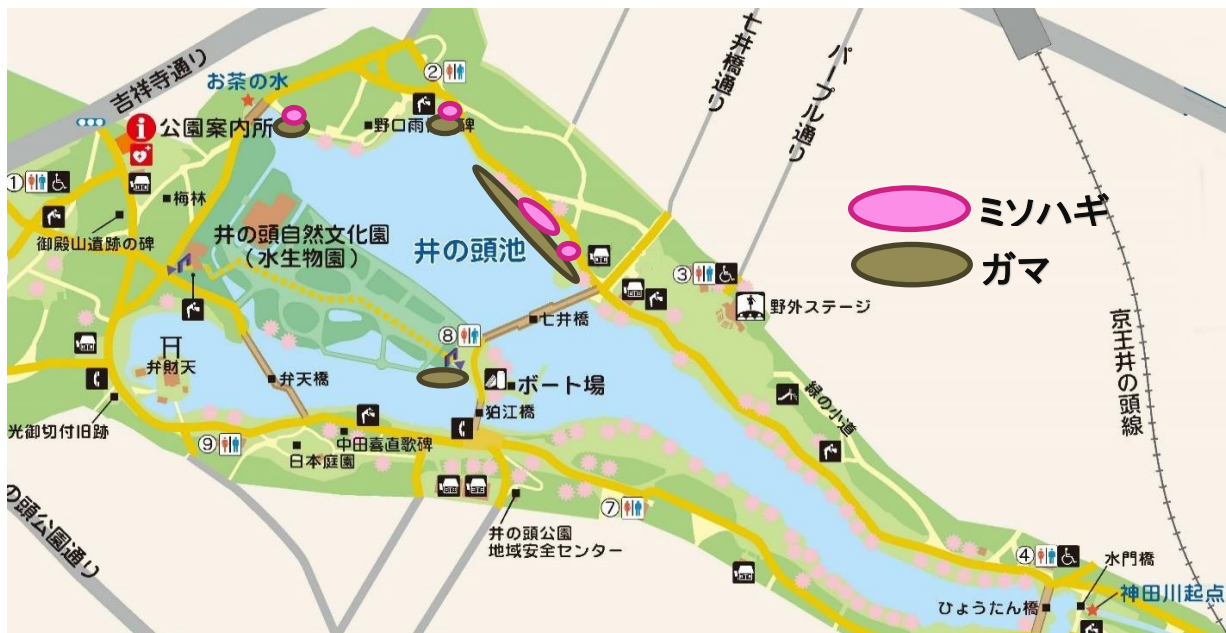


ミソハギ【ミソハギ科】

日本各地の湿原や小川、用水路の縁などに見られる多年草です。茎はまっすぐで、細い地下茎を伸ばして群生します。葉は濃い緑色で、濃いピンクの小さな花が、茎の先端に穂になって咲きます。盆花としてよく使われ、ボンバナ、ショウリョウバナ（精霊花）などの名もあります。ミソハギの名の由来はハギに似て禊（みそぎ）に使ったことから禊萩、または溝に生えることから溝萩によるといわれています。

ガマの穂【ガマ科】

北海道から九州の湖沼やため池、河川、水路、休耕田、湿地などに見られる多年草の抽水植物です。太い地下茎が泥中を横走して広がり群生します。雌雄同株で、穂状花序の上部に雄花、下方に雌花をつけます。果実が熟すと赤褐色のソーセージの形に似たガマの穂となります。晩秋になるとガマの穂が崩れて果穂の上方からふわふわした白い綿毛をもつ種子が風によって飛散します。



※花便りに関するご質問は、井の頭恩賜公園案内所(TEL0422-47-6900)までお問い合わせください。